



Medical Satellite

Yaesu Clinic News

Vol.4 (Monthly) May, 2003

発行所：メディカルサテライト八重洲クリニック



0120-786-055

東京都中央区八重洲 1-5-9 八重洲アメレックスビル 9F TEL03-3516-8020 FAX03-3516-8022

「MRの歴史」

MRの原理である核磁気共鳴現象（NMR現象）は1946年にアメリカのPurcellとBlochによって、偶然にもほぼ同時期に報告され、二人ともがノーベル賞を受賞することとなった発見でもあります。

その後、核磁気共鳴現象を医学に応用しようとする試みは、1971年ころから始まりました。Damadianによる乳癌組織の緩和時間が正常組織の緩和時間と比較して約2倍長いという報告からでした。

また当初、NMR(nuclear magnetic resonance)と呼ばれていましたが、核磁気共鳴現象の“核”が放射能を連想してしまうことなどから、後にMR(magnetic resonance)またはMRI(magnetic resonance image)と呼ばれるようになりました。

1983年にはMR装置が日本に導入され、1990年代になって急激に普及しました。現在、世界中で15,000台のMR装置が稼動し、日本では約4,000台が使用されるまでになり、人口100万人あたりの設置台数は約30台であり、日本は世界でトップの地位を占めていることとなります。

「MRA検査の取扱いについて」

当クリニックは、昨年10月の開業より診療を行ってまいりました。画像診断によって病巣をできるだけ多く発見することを方針の一つとし、MRA検査が必要と判断される場合には、積極的にMRA検査を実施しており（昨年10月から今年3月までの6ヶ月間に、頭部MR検査の内、MRA検査を行なった症例は約38%でした）これが異常所見を正確に発見出来る一因になってまいりました（モヤモヤ病なども実際に発見されております）。

当クリニックでは、健康保険法の規定によりMRA検査について、他の病院と同様、本年4月より特殊撮影の加算料金を徴収することになりました（八重洲ニュース3月号でお知らせした内容です）。この改訂に伴って当クリニックでは、4月の検査においては、MRA等の特殊撮影を行うか否かはご依頼元の先生のご判断に従うという方針の下に検査を実施してまいりましたが、本来必要と思われるケースで実際のご依頼が無いケースも目立っております。そこで今後は、以下の方針の下に、MRA等の特殊撮影を行わせていただきたいと思います。

1. ご依頼いただいた検査内容に、MRAの撮影をご希望されている場合

2. MRA検査を行なったほうが良いと判断される場合

また、依頼内容によりMRA検査をお勧めする症状および検査目的としては以下の項目がその候補として挙げられます。

頭痛、眩暈、ふらつき、吐き気、複視、視野狭窄、動脈瘤疑い、動静脈奇形の疑い、くも膜下出血の家族歴を有する場合の脳動脈瘤のスクリーニング等、脳血管疾患が疑われる場合のほとんどを含みます。また、血管による神経の圧迫が原因と思われる疾患（顔面痙攣、顔面神経痛）の診断にも有用です。

モヤモヤ病のT2強調画像（図1）およびMRA（図2）を示します。MRA上、中大脳動脈が細く、右はほとんど描出されていません。前大脳動脈もはっきりと描出されていません。T2強調画像ではこれら血管の状態を描出するには困難な場合があります。



T2強調画像（図1）



MRA画像（図2）

「八重洲ニュース発行期間変更のご案内」

「八重洲ニュース」は、平成15年2月の創刊より主に画像診断に関する情報を掲載する新聞として毎月発行してまいりました。昨今、先生方より新聞のみならず、講演会の開催希望が多く寄せられており、当クリニックでも開催の準備に取りかかっています。つきましては今後、誠に勝手ではございますが、八重洲ニュースの発刊を隔月で行うことに決定致しました。ご理解の程、お願い申し上げます。

< 診療時間：月曜～金曜日：午前9時～午後9時 土日祝日：午前10時～午後5時、造影日：月曜～土曜日 >